

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>地域活性化, 及び, 日本のIT技術向上のため, 超高速ブロードバンド基盤整備は必要であると考えが, その利用方法についても同時に議論するべきである。</p> <p>全世界帯に超高速ブロードバンドを整備すれど, その利活用について国が無関心だと, よく言われる「箱物整備」と同様であり, 有効な税金の使い方だとは思わない。</p> <p>また, 未整備エリアについては, 過疎化及び高齢化が進んでいる地域だと思われるので, 生きがい対策, 独居老人対策等にも目を向けるべきである。</p> <p>サービスと物理層基盤の関係が一對一で無くなった今日において必要なのは, 光ファイバーの未整備地域の解消ではなく, IPインフラ未整備地区の解消である。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには, 低廉な料金で利用可能となるように, 事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが, NTTの組織形態の在り方も含め, この点についてどのように考えるか。</p>	<p>この先, ITの革命的な技術革新は見込まれず, 既存技術の組み合わせやブラッシュアップによるサービスインテグレーションがメインになると思われる。そのため, ComCast, ベライゾン, また, Apple等, 欧米のサービスは, 垂直統合サービスでユーザが使いやすいように組み合わせ, ITイノベーションを行っている。</p> <p>光の道構想は, さらにサービス提供者の階層的分離をもたらし, 日本のITイノベーション土壤の悪化につながる。</p> <p>技術開発, サービス展開共に, 国際的な競争が激しい中, 相手にしないといけないのは世界であり, 日本の英知を結集し, 世界に通じるサービス開発を国策として展開すべき時に, 国内の利用料金低廉化のみを主眼として, 事業者について議論している場合ではない。</p> <p>日本国内及び世界のエンドユーザが望むサービス開発の土壤を活性化させる施策こそ望まれていると考える。</p>